

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	通過率(%)	備考
地理A(1)ア	1	(1) 略地図から、経度0度が本初子午線であることを理解している。	知・技	72	
地理A(1)ア		(2) 略地図から、緯度・経度を用いた地図上の位置の表し方を理解している。	知・技	28	
地理A(1)ア		(3) 略地図から、三大洋の位置を理解している。	知・技	83	
地理A(1)ア		① 略地図と対話文を関連付け、日本とマイアミの経度差を読み取り指摘している。	知・技	29	
地理A(1)イ	(4)	②③ 略地図と対話文を関連付け、マイアミの時刻を条件に合った文章で表現している。	思・判・表	19	○
地理B(2)イ	2	(1) 資料1と資料2から、冬の温暖な気候に影響を与えている北大西洋海流と偏西風の影響で、ヨーロッパの冬が温暖な気候であることを説明している。	思・判・表	28	
地理B(2)ア		(2) 資料3から、モノカルチャー経済を理解している。	知・技	50	
地理B(2)イ		(3) 地図から、インドの位置を読み取り、特徴を指摘している。	思・判・表	43	
地理B(2)イ		(4) 資料4から、白豪主義について条件に合った文章で表現している。	思・判・表	30	
地理B(2)ア		(5) 対話文から、アメリカ合衆国の特徴を指摘している。	知・技	29	
地理B(2)イ		(6) 複数の資料を比較し、インド、オーストラリア、アメリカ合衆国、ブラジルの特徴を指摘している。	思・判・表	24	○
地理A(1)ア	3	① 資料の文を読み取り、島の位置を正しく選択し、沖ノ鳥島を指摘している。	知・技	45	
地理A(1)イ		② 資料の文と地図情報とを関連付け、排他的経済水域を守らなければならない理由を説明している。	思・判・表	69	
地理A(1)ア		(2) 地図から、竹島の位置を読み取り、名称と都道府県名を指摘している。	知・技	46	
歴史B(1)イ	4	(1) 資料1から、縄文時代の貝塚からわかることについて説明している。	思・判・表	70	
歴史B(1)ア		(2) 資料2から、弥生時代の遺跡を指摘している。	知・技	53	
歴史B(1)イ		(3) 資料3と地図情報を関連付け、5世紀の東アジアの様子を指摘している。	思・判・表	40	○
歴史B(1)ア		(4) 複数の資料から、出土品の時代名を指摘している。	知・技	68	
歴史B(1)ア	5	(1) 十七条の憲法を指摘している。	知・技	68	
歴史B(1)イ		(2) 示されたできごとについて、歴史の流れにしたがって適切に並べ替えている。	思・判・表	16	
歴史B(1)ア		(3) 壘田永年私財法の影響として、貴族や寺院の荘園が増えたことを指摘している。	知・技	45	
歴史B(1)イ		(4) 平安時代に女子の人数が多いつわりの戸籍が作られるようになった理由を文章で表現している。	思・判・表	49	○
歴史B(1)イ		(5) 2つの資料を比較し、正倉院の宝物の一つであるガラス製容器とペルシャのガラス製容器のつくりが似ている理由について、指摘している。	思・判・表	50	
歴史B(1)ア		(6) 図から、国風文化の特色について、あてはまる語句を指摘している。	知・技	61	
歴史B(2)ア	6	A 鎌倉幕府の将軍の補佐役として、執権を指摘している。	知・技	39	
歴史B(2)ア		B 室町時代の将軍の補佐役として、管領を指摘している。	知・技	27	
歴史B(2)イ		(2) 資料から、室町文化の文化遺産を指摘している。	思・判・表	58	
歴史B(2)イ		(3) 資料から、鎌倉仏教の特徴について条件に合った文章で表現している。	思・判・表	38	○

※備考欄の「○」は、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した問題。

評価の観点	知・技	思・判・表
通過率	49	41

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	備考	東青管内			西北管内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	(1)	本初子午線の理解		78	78	82	70	65	72	75	
	(2)	地球上の位置の指摘		32	32	22	34	34	31	36	
	(3)	三大洋の理解		83	83	83	80	79	79	81	
	(4)	①	日本とマイアミの経度差の指摘		37	37	32	30	24	30	36
		②・③	マイアミの時刻の指摘	○	25	25	24	18	15	14	25
2	(1)	西岸海洋性気候の説明		35	36	21	21	19	15	26	
	(2)	モノカルチャー経済の理解		59	59	57	47	41	53	51	
	(3)	インドの特徴の指摘		47	47	42	37	40	35	34	
	(4)	白豪主義の理解		35	35	42	29	27	22	36	
	(5)	アメリカ合衆国の特徴の指摘		33	33	27	26	26	20	29	
	(6)	インド、オーストラリア、アメリカ合衆国、ブラジルの特徴の指摘	○	25	25	24	20	15	25	24	
3	(1)	①		49	49	48	39	34	39	44	
		②	排他的経済水域の説明		67	67	72	68	68	53	79
	(2)	領土問題の理解		46	47	36	52	50	52	53	
4	(1)	貝塚の説明		72	72	66	67	63	60	76	
	(2)	弥生時代の遺跡の指摘		55	55	54	54	59	47	53	
	(3)	5世紀ごろの東アジア情勢の指摘	○	41	41	31	45	44	43	46	
	(4)	時代ごとの主な出土品の指摘		73	73	74	67	67	70	65	
5	(1)	十七条の憲法の指摘		74	74	73	55	58	55	52	
	(2)	飛鳥時代から平安時代にかけての出来事の並べ替え		18	18	22	11	12	9	13	
	(3)	墾田永年私財法の影響の指摘		48	48	43	42	38	40	48	
	(4)	いつわりの戸籍の説明	○	50	51	33	48	44	45	56	
	(5)	日本と西方のつながりの指摘		51	52	48	42	42	42	42	
	(6)	国風文化の特色の指摘		64	64	58	51	48	55	53	
6	(1)	A	執権の指摘		47	46	60	29	30	26	31
		B	管領の指摘		34	33	51	20	19	20	21
	(2)	室町文化の文化遺産の指摘		63	62	64	52	59	43	51	
	(3)	鎌倉仏教の特徴の説明	○	42	42	36	33	38	31	28	
教科全体				49	49	47	42	41	40	45	

※備考欄の「○」は、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した問題。

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
66	63	79	63	71	71	77	62	72	70	70	69	71	72	67	72
25	24	41	17	26	30	39	23	26	26	25	27	25	26	22	28
80	77	84	86	83	82	87	69	85	89	90	86	85	85	83	83
24	20	43	25	26	33	43	42	23	24	21	33	23	23	21	29
17	14	31	20	14	23	27	31	16	17	16	22	13	13	14	19
23	22	33	17	22	32	41	37	22	23	21	30	27	27	26	28
38	34	48	39	44	54	61	57	49	51	54	41	47	49	39	50
38	40	30	37	38	45	55	34	44	43	44	37	45	45	41	43
24	22	34	26	22	33	37	36	29	29	29	28	29	30	20	30
24	21	35	31	22	33	36	45	27	25	27	16	31	32	26	29
23	23	16	26	23	24	27	33	19	21	21	17	24	24	24	24
43	39	47	49	47	49	59	58	38	40	41	36	43	44	38	45
69	64	81	87	68	75	83	66	73	76	75	78	67	71	51	69
46	42	75	42	42	51	57	54	46	47	45	56	41	42	39	46
68	65	73	75	69	71	77	72	66	68	68	64	72	72	71	70
51	52	54	50	48	57	62	58	54	52	53	47	49	48	50	53
38	36	58	34	37	42	49	39	38	39	36	49	39	39	39	40
63	60	75	70	59	68	74	63	66	69	72	56	69	69	67	68
67	65	76	66	66	67	76	62	63	66	68	58	68	69	64	68
14	14	11	14	12	20	21	25	16	12	12	14	14	15	10	16
42	40	51	48	39	47	52	46	45	47	47	44	43	45	36	45
45	41	51	59	45	47	53	42	46	46	46	48	53	56	40	49
48	47	50	54	40	51	61	37	49	47	45	53	53	54	49	50
57	53	73	59	57	64	75	60	58	60	62	52	62	63	56	61
38	33	60	47	34	38	45	36	34	40	41	35	36	37	33	39
23	16	50	28	25	29	35	31	25	25	26	22	24	24	24	27
55	52	59	63	57	61	63	63	58	58	60	49	57	57	54	58
33	28	51	45	25	37	45	38	31	36	36	36	41	43	33	38
42	40	52	46	41	48	54	47	44	44	45	43	45	46	41	46

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例

問題番号	通過率 (%)	主な誤答例 (無答を含む) (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
1	(2) 28	<ul style="list-style-type: none"> ・緯度〇度、経度〇度【北緯、東経の記述がなく、緯度、経度を正しく読み取っていない】(16.5) ・無答 (13.0) ・緯度30度、経度75度【緯度、経度は読み取っているが、北緯、東経の記述がない】(12.0) ・北緯〇度、東経〇度【北緯、東経の記述はあるが、緯度、経度を正しく読み取っていない】(12.0)
2	(5) 29	<ul style="list-style-type: none"> ・ d、シリコンバレー (9.0) ・ c、語句を無答 (4.0) ・ d、語句を無答 (3.0) ・ a、アジア (2.5) ・ a、イギリス (2.0) ・ 記号、語句ともに無答 (7.5) ・ c、英語 (3.5) ・ a、語句を無答 (2.5) ・ c、フランス語 (2.0)
4	(3) 40	<ul style="list-style-type: none"> ・ウの主題図(7世紀初めの東アジア)を選択(46.5) ・アの主題図(2世紀ごろの東アジア)を選択(15.5)
5	(3) 45	<ul style="list-style-type: none"> ・イ「多くの土地を持つ貴族は、土地の面積に応じた税を支払うことになった。」を選択(27.0) ・ア「それまで豪族が支配していた土地と人々とは、国家の直接の支配を受けることになった。」を選択(15.0) ・ウ「朝廷は地方の政治を立て直すために、貴族の権限を強めた。」を選択(9.0) ・無答(1.5)
	(4) 49	<ul style="list-style-type: none"> ・無答(23.0) ・税の負担を軽減するため(4.0) ・女子は税を納めなくてもよい(3.0) ・各地で戸籍に登録する人が少ない(2.0) ・6歳以上の男女に税が課せられた(1.5) ・仕事が大変なので、働くことから逃げていた(1.5) ・税をたくさん得るため(1.0) ・身分や役割を明確にするため(1.0)
6	(1A) 39	<ul style="list-style-type: none"> ・無答(19.5) ・大名(3.0) ・関白(2.0) ・管領(5.0) ・老中(2.5) ・鎌倉府(1.5) ・武士(3.5) ・御家人(2.5) ・征夷大將軍(1.5) ・摂政(3.5) ・大老(2.0)

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 4(3)

○出題のねらい

資料と主題図の情報を関連付け、5世紀の東アジアの様子を指摘することができるかを判断する問題である。出題の意図は、倭王武の手紙の内容から大和朝廷の統一の様子と東アジアとの関わりを読み取り、その時代を表す適切な主題図を指摘する問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、約半数の生徒が誤答である選択肢ウ（7世紀初めの東アジア）を選択していた。

原因として、「弥生時代、古墳時代、飛鳥時代に活躍した人物を把握できていない」「大和朝廷の勢力の広がり」と東アジアの情勢の変化を関連付けられていない」という2点が考えられる。

課題として、各時代の特色を他の時代と比較して捉えたり、日本と諸外国とを関連付けて思考・判断したりする学習活動が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、複数の資料を比較したり関連付けたりして各時代の特色や推移を考察する学習活動の工夫が必要である。また、歴史的な事象を多面的・多角的に捉えるために、ペアやグループでの協働的な学習場面を設定した学習過程の工夫が必要である。

指導例

複数の資料を比較したり関連付けたりして東アジアとの交流を考察させる指導
～单元名「日本列島の誕生と大陸との交流」～

【指導の流れ】

1 弥生時代の社会について、学習したことを振り返らせる。



いくつかのむらをまとめる王が現れ、小さい国々ができていったね。

奴国は漢の皇帝から金印を受けられたよ。



邪馬台国の卑弥呼は、魏に使いを送って「親魏倭王」という称号と金印を受けられたよ。

ポイント

弥生時代の日本には小国が複数あり、中国に朝貢していた国もあったことを確認させる。

2 古墳時代（5世紀）の日本の地図や資料を提示し、気付いたことを発表させる。

学習活動 地図や資料から気付いたことをペアで話し合う。

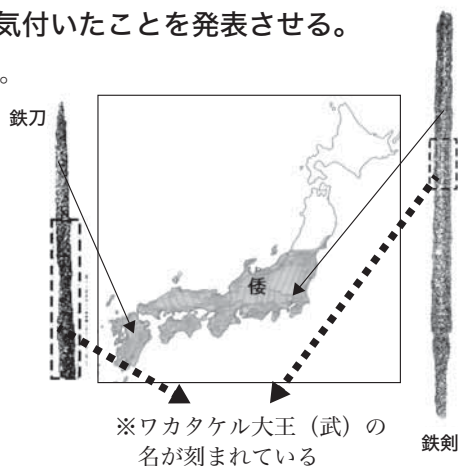


弥生時代はいくつかの国に分かれていたけど、「倭」という1つの国になっているよ。

九州地方から東北地方南部まで勢力を広げていたんだね。



鉄剣と鉄刀には「ワカタケル大王」と刻まれているから、倭の王は、「大王」と呼ばれるようになっていたんだね。



ポイント

「大和朝廷」の大王が、九州地方から東北地方南部まで勢力を広げたことを捉えさせる。

3 本時の学習課題を設定し、予想させる。



大和朝廷が地方の豪族を従え、勢力を広げることができたのはなぜでしょうか。

<学習課題> なぜ「大和朝廷」は勢力を広げることができたのだろうか。



弥生時代と同じように、中国に使いを送り、倭の国王としての地位を認めてもらったんじゃないかな。

鉄剣と鉄刀が見つまっているから、鉄製の武器を使って勢力を広げたんだと思うわ。



学習活動 教科書や資料から読み取ったことを、グループで整理する。

倭王武の手紙（部分要約）

私の祖先は、自らよろいやかぶとを身に着け、山や川をかけめぐり、東は55国、西は66国、さらに海をわたって95国を平定しました。しかし私の使いが陛下の所に貢ぎ物を持っていくのを、高句麗がじゃまをしています。今度こそ高句麗を破ろうと思いますので、私に高い地位をあたえて激励してください。
（「宋書」倭国伝）

大王は中国に使いを送り、高い位を与えてもらったんだね。朝鮮半島にも勢力を伸ばしたけど、高句麗という国とは仲が悪そうだね。



古墳から出土した鉄の延べ板
（奈良県）

大和朝廷は朝鮮半島の伽耶地域などから鉄の延べ板を輸入して、溶かしていろいろなものをつくっていたんだね。伽耶地域の国々とは交流が深かったんだね。



集団名	おもな仕事
陶作部 <small>くらつくりべ</small>	須恵器をつくる <small>すえき</small>
韓鍛冶部 <small>からかぬちべ</small>	鉄などの金属を加工する <small>きんぞく</small>
錦織部 <small>にしごりべ</small>	絹織物などをつくる <small>きぬおりもの</small>
史部 <small>ふひとべ</small>	記録をする <small>きろく</small>
画部 <small>えかきべ</small>	絵をえがく <small>え</small>

大和朝廷は、高度な技術をもつ渡来人を編成し、さまざまな物資や進んだ技術を取り入れた。

高句麗好太王碑文

新羅・百済はもともと高句麗に従っていたが、倭が391年に海を渡り、百済・伽耶・新羅を征服した。その後、百済は倭と交流を深めた。そこで高句麗の好太王は平壤におもむいた。そのとき倭に攻め込まれている新羅が援軍を求めてきたので、好太王は歩兵・騎兵5万人を派遣した。その軍が新羅に着くと、倭の軍は退いた。



好太王（広開土王）碑と碑文拓本



大和朝廷は、朝鮮から来た人々から進んだ技術を取り入れて力を強めていったんだね。

大和朝廷は伽耶地域や百済とは交流があったけど、新羅や高句麗とは戦っていたんだね。



4 3つの東アジアの地図（2世紀、5世紀、7世紀）を比較し、古墳時代（5世紀）の地図を選択させる。

学習活動 読み取った情報を基にして、古墳時代（5世紀）の東アジアの地図を選択する。



資料から読み取ったことを整理すると、このころの日本と東アジアを表した地図は3つのうち、どれでしょうか。

5 学習課題についてまとめさせる。

学習活動 資料から読み取ったことを関連付けて、学習課題に対するまとめを表現する。

ポイント

中国や朝鮮半島の国々との交流を通して、大和朝廷が勢力を広げたことを、多面的・多角的な視点（朝鮮半島への進出、鉄の輸入、進んだ技術の導入など）から考察し、まとめさせる。